

久留米つばき園案内図

Information Map of Kurume Camellia Garden

つばき



ツバキは日本を代表する国際的な花木です。久留米市東部の耳納山地区は古来ツバキの進化の舞台となり、推定樹齢300年を超える大樹も健在で、社寺や民家には古木・名木が数多く保存されています。1830年にシーボルト博士がオランダ王国へ接ぎ木苗を導入し、ドンクラール氏らの尽力でヨーロッパに普及した「Doncklaeri」の母樹は、草野町に現存する久留米つばきの「正義」と推定されています。

1950年代に始まった世界的なツバキブームが追い風となり、久留米では新花の開発が盛んに行われ、久留米はツバキ類の多様な品種の供給基地として発展し、20世紀末にはツバキ類の苗木生産量が全国第1位をしめるまでになりました。

本園は、元々ツバキの苗圃として明治時代に開墾された畑地で、地元の方達が丹精込めて育成したツバキや自然実生が混生していました。それらを活かしてつばき園に造成したものです。

整備に当たっては、久留米つばき保存会や草野校区の有志のご協力で、主として地元で育てた苗木・苗木を移植し、約500品種・2000本(実生を含む)のツバキ類が植栽されています。貴重な園芸品種や原種ツバキが数多く植えられており、ツバキの魅力を存分に観賞することができます。

つつじ

久留米つつじは、市の花として久留米市のシンボルであり、日本中で愛されている花です。また、日本だけでなく国際的にも「クルマアザレア」の名で親しまれています。久留米つつじの歴史は、約300年といわれ、現在でも公園・街路樹や家庭の庭でたくさんの種類が育てられており、4月になると街中に色とりどりの花を咲かせています。

久留米つつじの生みの親といわれているのは、江戸時代、久留米藩の馬術師範であった坂本元蔵です。当時、久留米地方ではつつじの盆栽が流行していましたが、種類が少なかったため、改良を思い立った元蔵は種をまいて育てる方法をつかって新品種のつつじを作ろうとしました。元蔵は城下を抜け出し、種を採取しては、苗床にまきましたがうまくいきません。ある日、自然に生えたコケの中につつじの小さな芽生えを見つけ、コケまき法のヒントをつかんだと言われています。この方法により、100種類以上もの久留米つつじが作り出されました。

久留米つつじは、霧島と呼ばれるつつじが母体になっています。元蔵が久留米つつじを作り出して以来、約750を超える品種名が記録されていますが、現在目にする事ができるのは、300程度です。その中でも、現在久留米市で流通しているものは約100品種といわれています。花は小柄なものが多く、一斉に開花します。花の色や形もたくさんあり、明るいものが多い事が特徴です。久留米市では、4月中旬～5月初旬にかけて楽しむ事ができます。

本園では、元々現在地に健在したもの、地元のご協力により移植したものを合わせ、久留米つつじ、平戸つつじ、西洋シャクナゲなど約200品種・500本のつつじを鑑賞することができます。

シャクナゲ

樹齢100年を越す西洋シャクナゲの他、美しい花をつける木がたくさんあります。

紅葉

紅葉やツバキを楽しむことが出来る和風の庭です。広場の中央には井戸水を利用したせせらぎ水路があります。

梅園

金盞梅など紅白の美しい梅を植栽した広場です。



久留米市の木 つばき(家庭の木)

エントランスゾーン



星飛竜(春サザンカ)



義司



青い珊瑚礁



玉之浦



桃太郎



胡蝶花助



姫白雪



夢の古里



チューリップタイム



乙女権



正義

つばきゾーン ①



発心桜(サザンカ)



富士の峰(サザンカ)



蜀紅錦(春サザンカ)



太郎冠者



仙花助



白玉宝珠



京錦

● つつじゾーン

● シャクナゲゾーン



新司錦



紋藏月



白玉



大錦(サザンカ)

つばきゾーン ②



丁子串(サザンカ)



花大臣



御代の栄



正義



小夜佐助/紅一休



久留米源氏



酒中花



ねぎりす



近江衣(春サザンカ)



旭(春サザンカ)

つばきゾーン ③



南蛮紅



天倫寺月光



晩山

つばきゾーン ④



原種ツバキ・ギカントカルバ



福娘



蜀紅錦(春サザンカ)



寒咲赤佐助



白佐助



ツバキの苗圃を活用して造成した園

本園は、元々ツバキの苗圃として明治時代に開墾された畑地で、これまで地元の方達が育成したツバキや自然実生株を活かしてつばき園に造成したものです。

園内は、ツバキやツツジをはじめ、タイサンボクやヒマラヤスギ、啓翁桜など往時を偲ぼせる樹木に巡りあうことができます。



貴重な樹木・品種に巡りあえる園

整備に当たっては、草野校区の有志のご協力で、主として地元で育てた苗木・苗木を移植し、全国でも有数の多品種、約500品種・2000本（実生を含む）のツバキ類を植栽しています。

白玉宝珠(しらたまほうしゅ)や太郎冠者(たろうかじゃ)、小夜侘助(さよわびすけ)など樹齢100年に及ぶツバキをはじめ、正義(まさよし)などの貴重な園芸品種や原種ツバキを数多く揃えており、ツバキの魅力を存分に味わうことができます。

つばきゾーン ①～④



白玉宝珠

太郎冠者

小夜侘助

四季を楽しめる園

園内は、つばきゾーンのほか、つつじゾーン、シャクナゲゾーン、紅葉ゾーン、梅園と季節ごとに楽しめるゾーニング、植栽を行っています。

つばきゾーンの500品種・2,000本のほか、つつじゾーンでは、200品種・500本のツツジを鑑賞することができます。

つつじゾーン



紅かすり

夢かすり

暮の雪

麒麟

シャクナゲゾーン

紅葉ゾーン

梅園



樹形を楽しみながら散策できる園

本園は、自然を活かすとともに魅せる植栽を心がけており、ツバキやツツジの花のみならず、樹形や整枝(せいし)にも注目していただきながら園内の散策を楽しむことができます。

